

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		<input type="radio"/> 現在母体組織の理念を掲げているので、ホーム独自の理念を職員と共に、考えていきたいと思っている。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時にマニュアルを基に、施設の理念について話している。また、会議などの時に職員に話をするよう心がけている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	開所時に地域の方をホームに招待した。また、運営推進会議の際民生委員の方に参加をいただき、地域の方に理解していただくようお話をしている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームには畑があるので、ご近所の方にいろいろと教えていただいている。また、ウッドデッキで日向ぼっこをしていると、ご近所の赤ちゃんが遊びに来たり、散歩に出かけると気軽に声をかけてくださる。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に参加させていただいている。回覧板を回したり、地域の清掃などにも参加している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		○	施設が開所してまだ1年未満なので、取り組めていない。今後地域の中でお役に立てることがあれば、運営推進会議などの場で相談し、取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	外部評価について職員に意義を伝え、自己評価について話あった。		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	利用者の様子や、ホームの取り組みについて毎回報告を行い、意見を伺っている。ホームの駐車場の使用方法や、日々の過ごし方などについての要望を受け、改善をおこなったり、ケアに生かしている。		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	相談がある時には出かけて行き、助言をいただいている。		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		○	個々に学ぶことはあったが、今までホームで該当するケースがなく、みんなで一緒に学ぶ機会を持つことができていなかった。今後機会を作って学んでいきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	関連施設で主催する勉強会や研修等に参加し、虐待防止について学んでいる。また、会議の時、折に触れ話すよう心がけている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>職員ができるだけお話を伺うよう心がけているが、現在介護相談員の受け入れはしていないので、関係機関に依頼し、今後受け入れていきたいと考えている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会にはできるだけ参加してもらっている。希望があれば参加しやすい様、勤務の調節も行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		○ 地域密着型連絡協議会には入会しているが、相互訪問などは行っていないので、今後交換研修などにも参加をしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休暇が取れるよう勤務のバランスを考慮している。また、会議の時休憩の取り方について職員の意見を聞き話合った。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	役割を持って仕事に取り組むことで、意欲向上につながるようにしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		○ 入所の申し込みがあった際、ご本人と会うよう心がけているが、ご家族は本人には伝えないで来るケースがほとんどで、場合によっては「本人が不安になるので直接は会わないでほしい」といわれることもあり、十分に対応できていないのが現状である。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所の希望があった際には、必ず面談をしお話を伺っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時状況を確認し、その方が今どのような支援が必要かをともに考え、必要な支援に結びつけるようにしている。(早急に入所を希望される時には、他のホームを紹介したり、ショートステイの利用なども進めている。)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に見学に来ていただけるようお話はしている。また、急な入所の時にも、ご家族の協力をいただきながら面会の機会を増やしていただいたり、不安な時には電話で声を聞いたりするなど、徐々に慣れていただけるような工夫はしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活を共にする中で、さまざまな事を学ばせていただいている。笑ったり、一緒に泣いたりする中で、支えあう関係ができつつあると感じている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている		○	運営推進会議の時出席されたご家族より「外出行事に参加したい」また「草むしりや畑仕事に協力したい」などの申し出があった。現在、外出行事への参加を計画している。今までは機会が作れなかったが、今後ご家族も巻き込んで共に協力し合える関係を作っていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族面談の時にいろいろと話を伺い、それぞれのご家族の関係を理解するようにしている。また、面会の少ないご家族にはできるだけ来ていただく機会を作るなど配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに親戚や友人が遊びに来られている。また、牧師さんをしていただいた方がいて、その頃教えを受けていた方々が、今も定期的に面会に来ている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は常に利用者の様子を把握するようにし、関係が悪化しそうな時には調整するようにしている。また、みんなで楽しく過ごす時間を(かるたやトランプ・外出など)作ったり、一人で部屋にいるときには声をかけたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている		○	時々様子を伺うため連絡をすることはあるが、ホームに来ていただいたりはしていないので、行事など機会があれば参加していただけるよう考えていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に希望を伺える時には何うようにしている。また、訴えが困難な場合も、その方の生活歴やご家族のお話などから意向を把握するよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面談や本人から聞き取りを行い、生活歴や生育歴等を把握するよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメントを取ることでその方の生活リズムの把握や、できないこと出来ることを知り、ケアに役立てている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・ご家族より意見を伺い、また、訴えができない方は職員がさまざまな資料をもとに推察することで、利用者が自分らしく生活できるためにはどうしたらいいかを考え介護計画を作っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを実施しケアプランの評価をすることで、現状に即していない場合は話し合い、新たに計画を立てるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子や状態の変化等は個人記録やバイタルチェック表に記入することで、情報の共有に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	基本的には受診等をご家族に行っているが、緊急時は勿論、ご家族が対応できない時には職員が対応している。また、車いすの方が受診に行かれる際、リフト車で送迎なども行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近くの交番の警察官が訪問して下さったり、また消防署員立ち合いで避難訓練を実施したりしている。民生委員に運営推進会議に参加していただき、地域の方にホームの存在を知らせていただくとともに、緊急時には協力をいただけるようお話をいただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望に応じて訪問理美容サービスや地域の理美容サービスなどを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○	困難事例について解決に向けて相談に行ったが、長期的な支援に結びつくような支援はできなかった。地域包括支援センターと協働することで長期的な支援ができるようにしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が同行し専門医等受診されている。しかし、ご家族の対応が難しいケースが多く、協力医の往診を希望される方が多い。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	現在はまだ話し合いは持っていない。今後家族や医師も交え考えていきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	急変時の対応については医療との連携も含め職員の中では話し合いは行っているが、ご家族の意向等は伺っていない。今後面談などの機会に、急変時や終末期を迎えた時の過ごし方について、ご家族とも話し合いを持っていきたいと思う。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>言葉かけや、利用者に対応する際のマニュアルを作成し職員に渡すとともに、会議などの時に話をすることで職員の意識の向上に努めている。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>利用者が主体であることを常に職員に伝えるようにしている。耳が遠い方には、書いて伝えたり、またできるだけ自己決定できるような環境作りするよう心がけている。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>大まかな1日の流れはあるが、天気良ければ散歩に行くなど、その時々に応じて対応している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>訪問の理美容を利用される方もいるが、希望に応じてかかりつけの美容院や、地域の美容院を利用している。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>毎日の調理などには参加していない。立ち仕事は難しいという利用者からの意見もあり、おやつ作りなど部分的には参加していただいている。買い物や片付け等は手伝っていただいているが、まだまだ十分とはいえない。今後工夫をすることで、もっともっと利用者が参加できる場を提供していきたい。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>誕生日の時など本人の希望を聞いて食事を出すようにしているが、日常的に楽しめるような支援ではないので、今後考えていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のリズムを把握し、失敗やおむつの量を減らすような努力はしている。夜間の失禁の状況を把握し、トイレに案内したことでおむつを外し、失禁がなくなったケースもある。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		○	職員の勤務状況に合わせて、入浴の曜日を決めてしまっている。今後、利用者の意見も聞き、考えていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中に活動できるようにし、生活のリズムを整えているが、年齢や身体状況に応じて、希望があれば休息を取っていただけるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の好きなこと、得意なことを探し、取り組んでいただけるようにしている。また、利用者が書いた習字やぬり絵、一緒に制作したものを発表できる場を作り(作品展)張り合いにつなげている。ホームの畑で作物を収穫していただいたり、ウッドデッキに花を植えていただいたりしている。気分転換のため月に1度外食や外出をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		○	外出で買い物をする時などにおこずかいをもって行ってもらうことはあるが、物取られ妄想がある方も多く、ホームでお小遣いとしてお預かりし必要に応じて使用することはあっても、個人で所持したり管理できていないのが現状である。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や外出の希望があれば、できるだけ対応するようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人が行きたいと希望された時には、ご家族にお話しし、できる限り実現できるようにしている。(墓参りなど)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかたいと希望されて時は、可能な限り電話をしていただいている。手紙など書かれた時もお預かりし、ご家族にお渡ししている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や知人の方の訪問があった時にはお茶をお出しし、希望される場所でゆっくり過ごしていただくようにしている。		
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体施設の拘束防止委員会に出席し、情報を交換するとともに、勉強会などにも参加するようにしている。また、会議の時に委員から報告してもらい、職員の意識を高めるようにしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵をかけることはない。また、天気のいい時には居室の掃き出し窓もあいている。職員が注意深く見守ることで、できるだけ自由に生活できるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はホール対応の職員が見守りを行うようにしている。夜間は2時間おきに巡視するとともに、物音がしたり起きてこられた時には、随時対応している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗面所などに共通で使うものなどは置いているが、異食のある方の近くには、口に入れて困るようなものは置かないようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットに記録することで、事故を予見し防ぐことができるよう努力している。職員間でも勿論対策を話し合うが、母体施設の安全委員会などにも報告し、助言をいただくようにしている。また、急変時の対応の勉強会に参加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている		○	関連施設に勤務していた職員は緊急時の対応を学ぶ機会があったが、他の職員はまだ研修に参加できていないので、随時参加し学んでいきたいと思っている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を行っている。また、運営推進会議の時に民生委員に地域の方に緊急時に協力が頂けるよう、機会があったら話していただきたいとお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	面談の時に現在の状況や、想定できるリスクについてお話し、理解をいただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日に1度、また必要に応じてバイタルチェックを行い、変化のある時には必ず申し送るようにしている。同時に、排便の状況や食事をチェックし、状態に応じて訪問介護に連絡し相談するとともに、速やかに受診するようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に常に最新の処方箋をファイルし、いつでも目を通せるようにしている。また、ホームの利用者が服用している薬の一覧表を作成している。キッチンには薬の服用により食べてはいけないものや、注意が必要なことを書いた表を張り、職員が確認できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表をつけ、排便状況を把握するようにしている。また排便がない時には冷たい水や、牛乳を飲んでいただいたり、おなかを温めるなどの工夫をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアをしている。自分でできる方にはしていただき、できない方にはその方に応じて介助を行っている。夜は入れ歯を預かりし、消毒している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックを行い記録している。また、1か月の食事を写真に撮り、母体施設の管理栄養士にアドバイスをもらい、できるだけバランスのとれた食事を提供するように努めている。水分の少ない方や食事量の少ない方には、補助的なものを提供するようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日布きんやまな板を消毒したり、また日にちを決め茶碗等も消毒している。また、食材は賞味期限切れにならないよう職員で申し送って使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前や玄関を入った正面にお花を置いて季節感を出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しが強い時にはロールカーテンを引いてまめに調節している。なるべく季節感を味わっていただけるよう、洗面所やテーブルに季節の花を飾るようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席でお話ができるようにしている。また、テレビが見たい方ソファーで見ていただくなど、思い思いに過ごしていただくようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	本人の希望に応じて椅子やテーブル、タンスなどを持っ てきていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	温度調節や換気などは職員が気を配りまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	ホームの内部はバリアフリーにし、手すりなどを設置するこ とで歩行ができるようにしている。また、個人の状態に合わ せ、杖や車いすやシルバーカーなどを使用していただいで いる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	居室を間違ってしまう方には入口の見える高さのところに目 印を置くなどしている。コップなど間違いやすいものにはわか りやすく表示することで、他の利用者のもものと区別できるよ う配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	天気のいい日はウッドデッキに出てお茶を飲んだり、シャボ ン玉をしたり、お花を植えたりしている。また、畑に出て作物 の収穫をしていただいでいる。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

私たちのグループホームには畑があり、利用者と一緒に作物を育て、収穫をしています。利用者は、作物が育つことをとても楽しみにされています。作物の生育が楽しみや張り合いになっています。また、作業を通じてご近所との交流も、持てるようになりました。

また、利用者の生活歴や趣味などを通し、製作や習字・縫物など個々の利用者に合わせて提供しています。最初は職員に勧められてやり始めた方が多かったのですが、1つ1つ取り組んでいくうちに「ここはこうしたい・・・」と考えたり、工夫をされるようになりました。皆さんが作った作品は展示し、利用者はもちろん、ご家族や、来所された方にも見ていただきました。利用者皆さんがとても喜ばれたと同時に、ご家族も大変喜んで下さいました。

開所して以来、毎日のようにご家族や知人の面会があります。面会時に面会カードを書いています。すでに700枚を超えています。ご家族や、地域の方との関係を大切に、今後もいつでも気楽によっていただけるような施設でありたいと思っています。